

# 【ねがいましては】

平成15年10月27日

第160号

KYOWA SCHOOL

「原点」

『初心忘るべからず』・・・慣れてきた心にゆるみの出るのを戒める言葉。

として用いられるのが普通です。さてこのことわざが、今回どのように関係してくるかと言うと・・・。

またまた先日、相田みつを美術館に行ってきました。そこに無料の喫茶コーナーがあるのですが、私はそこで今まで触れることがなかった相田作品に出会うことができました。

それが別刷りのプリントです。

お母さんと子供の気持が一つになる。子育てのスタートで誰もが抱く純粋な心。それが時間の経過とともに周りからの様々な情報や自己の名誉欲などによって、少しずつ少しずつ削り取られ、気がついてみるといつのまにか我を見失っている。

学校でも同様なことが繰り広げられていることがあります。

ある日の学校です。授業中、担任の先生が残り20分というところで急用のため中座、「みなさん、残りの20分は自習にします。静かにがんばってね！」その後の教室の中はどのような光景になるか。大体察しは着くと思います。早速席を立って、おしゃべりに夢中！というのが大方の予想ではないかと思います。

初めて学校に入学した頃、子供達は一様に思います。先生とお友だちと楽しくお勉強するんだ。いろいろなことを教えてもらうんだ。初心は美しいものです。

そして自習となったとき、「さー、おしゃべりできるぞ。」「教室の中を駆け回れるぞ。」とは誰も考えていないかったはず。でも、ある程度学年が進むと・・・？

全員が良いこと悪いことをしっかりとわかっていないながら、なぜ・・・。

テストの点数を周りの子に見られないようににびくびくしながら、そのテストの点数を見たときのお母さんの激昂におびえながら学校に通う子供達。知らず知らずのうちに、「周りの子がやっているのだから、この程度ならいいや。あの子も言ったんだから私だって。傷ついてしまう言葉でも、だんだん・・・。だってみんながやっていることに合わせないと、仲間はずれにされたりしちゃうから・・・。」子供達の心はとても弱いのです。

競争心から身についてしまった心。助け合いなさいと言われながら、競争させられる子供達。矛盾・・・。

先日、その20分の自習について生徒たちに話したことがあります。

「この教室でも、先生がいなくなるとどうだっけ？やっぱり学校みたいにお話はじめてるかな？」と私の問いかけ。

「いつもと変わりなく、机に向かい続けてるでしょう。どっちが本当の本物かなー？」

私も自分でこのようなことを話しながら、自分でなるほどー、と、気づいたのです。

たしかにここでは、私は何も気にせずに教室を出たり入ったり、低学年の子などは車で送迎するため、教室を空けることが良くあるのです。その間残った子達はなにをしているのか、いたって普通に机に向かっています。わからないことがあれば、お互いに助け合いながら教え合っています。それでもダメなときは、他の教科を学習するか、パソコンなどで英単語練習をしたり、九九の練習をしたりさまざまです。

私が教室を中座するとき、普通の表情で普通に出かけます。誰一人疑うこともせずに・・・。100%信じきった心が私の表情をつくっています。残された子供達はそんな私をどう見ているのか。

普通のことをあたり前のようにすることが、ある意味気持ちが良いのかもしれません。

道幅が6メートルほどの赤信号を、全員が普通に待っている。なんかさわやかな気持。

何が良くて何が悪いかは、みんなの心の中にしっかりとあります。だから、それに自然に従っているだけ。

この感覚がみんなの中に自然体としてあるだけです。

私の口癖、『勉強のことは絶対に叱ったりしないよ。でも、心のことはしっかりと叱るよ。』

子供達はお母さんたちを比べっこして点数つけて優越感や劣等感など味わっていません。仲良く助け合いながら理解し合える勉強に、目を細くして、心を温かくして向かっています。子供達にとって一番大切なおかあさん。比べられるはずなどありません。いつでもお母さんが一番なのです。お母さんにとってお子さんが一番なのです。

もしお母さんが我が子を比べたりしたら、お子さんも負けじとお母さんを比べるかもしれません。実はそのとき、お子さんはとても寂しく苦しいのです。傷ついているのです。「原点」です。

## 11月の予定

14日（金） 珠算・暗算検定試験申し込みしめきり

26日（水）～28日（金） 検定試験実施

くりたのランチ講習予定日 → 15日（土）・22日（土）・23日（祝）・24日（月）カレンダーに印してね